



外国と日本ではどうして時間がちがうの、どうして時差があるの

同じ時刻に、昼間の国と夜の国がある

地球上の各地方によって異なる時刻の差を、時差といいます。

地球は丸く、しかも回転しています。したがって、地球上には、太陽の光の当たるところと当たらないところが出てきます。太陽の光の当たるところが昼で、当たらないところは、夜になります。

つまり、地球のある場所が昼ならば、その裏側は必ず夜ということになるわけです。日本とアメリカも、だいたいこの表と裏の関係です。日本が昼のときは、アメリカは夜になり、日本が夜のときは、アメリカは昼になるのです。このように、アメリカやそのほかの国々と日本との間に時差があるのは、地球が丸くて、回転していることが原因です。

もし時差がなかったら

時差がなく、世界中同じ時間だとすると、1日の暮らしの時間がめちゃくちゃになってしまいます。たとえばアメリカを基準にして、世界中の時間を同じにすると、アメリカ人は朝7時におきて、お昼は12時に食べるという時間設定が可能です。ところが、日本ではそうはいきません。

日本とアメリカでは、およそ14時間の時差があるために、アメリカのお昼の12時は、日本では夜中の2時になるのです。日本では、夜中の2時にお昼を食べることになってしまいます。

これでは大変なので、時差というものを決めたのです。時差があるために、世界中どの国でも、お昼は12時に食べることができるわけです。（監修・保岡 孝之）

